

かわいい冬の訪問者

「ほらほら！ またメジロが来ているよ」。庭木の枝に刺したミカンがお目当てです。山の食べ物が少ないこの頃になるとやってきて、春とともにかわいい姿も見なくなります。いろいろな山のごちそうが育ってくるのでしょう。ここ何年か眺めているうちにちょっと気が付いたことがあります。たまたまなのか深い知識もないので勝手に想像してみました。

はじめのうちは、一羽でやってくるが多かったようですが、やがて二羽でやってくるようになったのを見て、「ああそうか・・・あの二羽たちはカップルになったのやわ」。そう思いながら見ていると、別々の枝に刺したミカンであっても、2羽一緒に食べることはほとんどなく、必ずと言っていいほど一羽は近くの枝にとどまり途中で交代しているので監視役をしているように見えてきます。

「仲いいなあ」

「うらやましい？」

〈うらやましいなあ〉と出かけた言葉をぐっと飲み込み、

「そうそう、先日庭のモミジの木を剪定した際こんなのが見つかった」と、テニスボールがスッポリはまり込む大きさのかわいい小鳥の巣を見せると

「無事子育てを終え巣立ちした跡みたいね。よかったあ」

心地よい気分をプレゼントしてくれたメジロたちに二人で感謝。

「来年も待ってるからね」。

ファミリーの居なくなった巣は、繰り返し使うことはしないと聞いているので、【子どもたちへの自然観察ボランティア】の教材に使わせてもらうこととし、そっといただき大切に保管しております。

